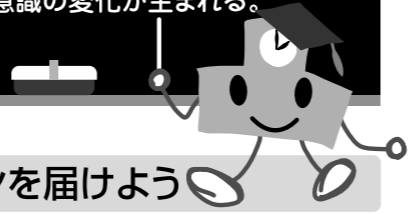


小学校の事例 東区 栄東小学校

今できることから始めよう。 環境活動から命を救う取組。

本校では、平成21年度からペットボトルキャップ収集を行っている。PTAの活動から児童会が行うように発展した。ワクチンによって救える命の数などを受領書で具体的に目にする事で、より動機づけされ熱心に。人に優しい街づくりから、地球に優しい心の意識の変化が生まれる。



内容 ペットボトルキャップを収集し 途上国にワクチンを届けよう

「石狩浜クリーンアップ活動」に続き、栄中校区内4校(栄中、栄北小、栄緑小、栄東小)の協力活動の第2弾として、「ペットボトルキャップを集め、世界の子供たちにワクチンを届けよう」という活動に参加。今できることから始めようという考えのもと、平成21年度からペットボトルキャップの収集に取り組んでいる。



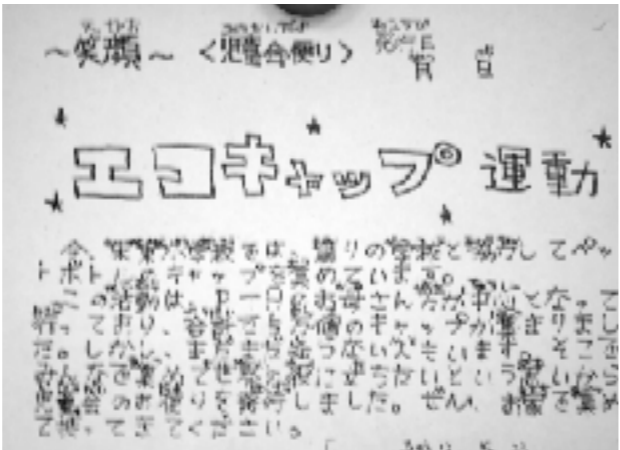
回収ボックス

これまではPTAで回収していたが、平成22年度からは児童会も関わりながら活動できるように取組み始めた。

児童玄関に収集ボックスを設置し、学校全体で収集し、収集の目的である途上国へワクチンを贈ることに對する意識を高めている。今年度は、児童会まつりでも子供たちが各家庭にあるペットボトルキャップを学校に持参する等、熱心に取り組んだ。

効果 児童会主体での活動へ

今まではPTAに任せていた活動を児童会で行うことが、児童会まつりでの収集につながっており、児童の関心が高まった。受領書では、実際に「集められた数」と「ワクチンを贈ることによって救える命」の成果が見えるため、より意識を高めることができる。これまではPTAが各家庭に「収集についてお願い」と題したおたよりを配布。収集の協力を呼びかけていた。



エコキャップ運動のポスター

集まったものを「エコキャップ推進協会」に送付し、受領個数、何人分のワクチンにあたるかと、焼却しなかったことで抑えられたCO2の量(kg)を受領書で確認していた。これからは、この活動が児童会も、より深く関わりながら活動できるようにしていく。



エコに関する掲示物

今後 誰にでも暮らしやすく 環境にも優しい街へ

5年生の社会科の学習で、地域の施設を見学の際、「障がいのある人にとって暮らしやすい街」について考える授業を実施している。過去には、地域の障がいのある人の施設へ行き、車いすの方との交流を行った。「皆にとって優しい街づくり」をすることの大切さを考え、これからの未来のために地球にも優しくしようと、地球環境を考える意識が生まれ始めた。このように、身近なことからつなげていくことで、子どもはしっかりと目的をもって行動するようになってきている。



社会科の学習風景

広げよう
つなげよう
環境学習の輪

児童会まつりでは、2年生以上がそれぞれのクラスごとに出店し、参加しています。お店では、ペットボトルを使ったゲームや段ボールを使った店など、リサイクルにこだわって取り組んでいます。準備段階から使用する量を減らし、使った後はリサイクルに出しています。ごみを減らすことを実感することで家庭でも取組んだり、日常のエコ意識につなげていきたいです。

実施校から
メッセージ